

無題 1

俺は純粋な怒りを忘れたくは無い
それが俺の幼稚さを起因とするものであれ

数々の怒りを俺は忘れたくは無い
それが俺の矮小さを原因とするものであれ

俺の心の奥底から湧いて来る
その怒りの噴出が黒い色をしているとしても
俺はその水を飲み そして浴びる

吐気とずぶ濡れで 今 何度目か
俺は黒く立ち上がらなければならない

黒人の肌の美しさ その悪酔いに似た感覚
怒り叫んでばかりいる その男の咽笛の繊細な震え

鋼の剃刀が持つ その比類無い美しさ
すっと引いた その瞬間の切れ味
そこに染み出してくる血は艶のある黒
血の温度
熱い熱 血の熱
藍黒い インクの血が流れているんだ
これが 真新しい水銀を含んだ旧来 of 詩人の血だ

自殺ごっこ 手首を薄らと切る 真似事はやめろ
死にたい奴は詩人になれ
血をこぼす事を躊躇うだろうよ
詩人は血を吐き出すものだから
だからノートは血まみれだ

複合精神病の俺は軽蔑する
甘っちょろい自殺ごっこ お前
どうせ包帯するんだろ

薬物中毒の俺は軽蔑する
急いでカタをつけようとする お前
生命力の瞬間投棄 ゴミはクズ籠に捨てろ

死にたい奴は詩人になれ
生きたい奴は詩人になれ
そうすれば 俺みたく
死なずにことは済む
どうしても生きるしかなくなる

その心に 言葉があるからには